



2022年5月12日

各 位

会 社 名 株式会社 QD レーザ
 代表者名 代表取締役社長 菅原 充
 (コード番号: 6613 東証グロース)
 問合せ先 取締役 CFO 経営企画室長 幸野谷 信次
 (TEL. 044-333-3338)

2022年3月期通期業績予想と実績の差異並びに営業外収益及び営業外費用の計上に関するお知らせ

2022年2月10日に公表しました2022年3月期(2021年4月1日~2022年3月31日)の業績予想と本日公表の実績値において、下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。あわせて、2022年3月期におきまして、営業外収益及び営業外費用を計上することとなりましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期通期業績予想数値と実績値の差異について

(1) 2022年3月期通期業績予想数値と実績値の差異(2021年4月1日~2022年3月31日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,097	△549	△516	△502	△14.34
今回実績数値 (B)	1,101	△931	△893	△880	△25.17
増 減 額 (B - A)	4	△382	△377	△378	
増 減 率 (%)	0.4	-	-	-	
(参考) 前期実績 (2021年3月期)	895	△654	△707	△879	△32.94

(2) 差異の理由

2022/3期において、レーザーアイウェア事業の在庫評価損を408百万円計上いたしました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により想定以上に長引いている中国、韓国等での行動制限により、当初より予定していた海外販売展開の進展が現時点で不透明であることと、新たに投入する手持ち型の RETISSA ON HAND やデジタルカメラ用網膜投影ビューファインダの RETISSA SUPER CAPTURE、簡易検眼機の MEOCHECK の方が市場ニーズに手応えを感じ始めたこと、小型軽量化・操作性向上・低価格化へ向けて、普及機 Display III の開発が進展していることから、商品戦略の見直しを含めて RETISSA メディカル及び RETISSA Display II の将来販売予測を一旦保守的に見込んだため、関連在庫の評価減を行ったもので、資金の流出を伴うものではありません。

2. 営業外収益の内容

障害者総合支援事業費補助金（厚生労働省：障害者自立支援機器等開発促進事業）、中小企業経営支援等対策費補助金（経済産業省：戦略的基盤技術高度化支援事業）等により補助金収入 16 百万円、日本イギリス研究開発協力事業費助成金（NEDO 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構：課題設定型産業技術開発費助成金）により助成金収入 31 百万円を営業外収益として計上いたしました。

また、外国為替相場の変動により、為替差益 21 百万円を営業外収益として計上いたしました。これは主に当社が保有する外貨建て預金や売掛金の評価替えにより発生したものであり、今後の為替相場の状況により変動いたします。

3. 営業外費用の内容

上記補助金の交付に伴い、圧縮記帳する会計処理を適用し、固定資産圧縮損 12 百万円を営業外費用に計上いたしました。

以 上